

助産管理学

責任者・コーディネーター	成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授		
担当講座・学科(分野)	成育看護学講座		
対象学年	4	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

助産業務における管理の基本理念を踏まえ、妊産婦と家族を中心とした助産ケアが提供されるための管理のあり方を学ぶ。また、助産所、病院、診療所の各現場における管理の実際についても学び、それぞれの特徴や課題を理解する。さらに周産期医療において起こりうる医療事故を概観し、リスクマネジメントのあり方についても学修する。具体的には、助産業務と管理、助産所における管理、病院における管理、診療所における管理、医療事故とリスクマネジメントおよび管理の実際に関する事例について学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

助産業務における管理の基本を学習することで、病院や助産所等における管理の実際やリスクマネジメントの方法を理解し、妊産婦と家族を中心とした助産ケアが手峽されるための管理方法について考察することができるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：2, 3, 4, 5, 7, 8

・到達目標（SBO）

1. 助産業務における管理の基本理念を説明することができる。
2. 病院、助産所等における管理の実際を知り、その内容と課題を説明することができる。
3. 医療事故を防止するリスクマネジメントの基本について説明することができる。

・ 授業日程

(矢) マルチ 3-A 実習室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
10/5	火	3	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	助産業務と管理 ・ 助産業務における管理の基本理念について理解することができる
10/6	水	3	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	医療事故とリスクマネジメント ・ 周産期領域で起こりうる医療事故とリスクマネジメントの実際について理解することができる
10/26	火	2	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	病院における管理の実際 ・ 病院の産科病棟・産科外来、MFICU病棟における管理の実際について理解することができる
10/26	火	3	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授 西里 真澄 講師	災害時の母子支援と防災教育① (グループワーク) ・ 災害時の母子支援について、学生間のディスカッションを通じて理解することができる
10/26	火	4	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授 西里 真澄 講師	災害時の母子支援と防災教育② (グループワーク) ・ 妊産婦に対する防災教育について、学生間のディスカッションを通じて理解することができる
10/27	水	3	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	助産所における管理の実際① ・ 助産所や家庭分娩における分娩の実際について理解することができる
10/27	水	4	成育看護学講座	蛸崎 奈津子 教授	助産所における管理の実際② ・ 助産所における管理の実際について理解することができる

10/28	木	2	成育看護学講座	蛎崎 奈津子 教授	総括 ・助産業務における管理の基本理念をふまえ、様々な場所における管理の特徴を整理し、現代における助産管理の現状と課題について説明できる
-------	---	---	---------	-----------	---

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における 医療の質と安全	成田 伸 責任編集	日本看護協会出版会	2020

・成績評価方法

グループワークへの取組状況 80%、課題 20%にて評価する。なお、グループワークへの取組状況は、主体的・積極的態、グループメンバーとの意見交換・学び合いの状況を含む。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

授業内容について教科書等にて予習を行い講義に臨むこと。講義終了後は教科書や配付資料、ノート等にて復習を行い、次回の講義に臨むこと。各授業に対する事前学修時間は最低 30 分を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

課題やレスポンスカード等については、次の授業等で適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

助産師（別表2）：助産管理

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター（VPL-FWZ60）	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ（P-100）	1	講義用資料投影